

---

# 紳士はいつでも紳士であるべき

トロピカル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

紳士はいつでも紳士であるべき

### 【Nコード】

N02900

### 【作者名】

トロピカル

### 【あらすじ】

これは転生した主人公がチート能力を使って好き勝手するおはなし。

## ブローグ

「俺の名はユーキ・エンクルスト19歳!! ヴァルラント宇宙海賊団船長としてこの星を制圧するためにやってきた<キキィー――――バン!!>ぶるうあああああああ!!――!!?」

『せんちょ――――!!――!!?』

この事故による死亡者一名 名前 ユーキ・エンクルスト 19歳 グラ星の軌道上の宇宙船ポートで叫んでいたところ宇宙特急トラックが突っ込んできて跳ね飛ばされ死亡・・・遺体は吹き飛ばされ行方不明。

えっ? なぁにこれ?

-----

俺の名はユーキ・エンクルスト19歳。

幼い頃から冒険家の両親について行きで宇宙を駆け巡っていたことにより13歳となり一人前と認められるようになるころには様々な技術や経験、そして才能があったのか魔法をマスターしていた。剣術も両親に教わり、子どもたちに人気の魔法剣士、マジックナイト冒険家、アドベンチャーの称号を手に入れた。

しかし、ここからが大変だった。

なんとあの両親『ユーキ、あなたはもう一人前だわ。だからこの宇宙をひとりで巡り……超かわいいお嫁さんを見つけてきなさい！！（ババー……ン！！）』「父が後ろで派手な魔法撃って演出する音」……とか言って二人でどっか行きやがった……。

そしてさっきまではヴァルラント宇宙海賊団船長として宇宙をまたにかけていた。なんで海賊なんかやってんのって聞かれたら・・・まあいろいろあったんですよいろいろ・・・。

「ふゝむ、なかなか波乱万丈な人生じゃったんじゃな。」

「まあそうなんでしょうね。ところでいいかげんここがどこだか教えるジジイ！」

死んだはずの俺が目をさましてからずっと新聞を読みながらゆっくり俺の話を聞いている正体不明なじいさんは新聞を机に置くとこつちを向いた。

この真つ白な空間には俺とジジイ・・・あと机と椅子と新聞しかない。本当になにもない空間だ。

「んじゃサクつとオヌシがここにいる理由を説明しちやおうかの。まずワシは人間でいうところの神様ってやつじゃ。」

「へ」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「信じてないじゃろ」

「いや別に？」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「ッゴホン！ホントウに信じてる？」

「信じてるから早く言えめんどくさい！さっさと言えー！」

なんか神様（笑）のテンションが異様に低いw

「ワシがトラックに乗って爆走してたら跳ね飛ばしてしまいました。以上。」

ふむふむ

「テメエの仕業かあああああああああああー！！！」

「ぎゃ ああああああああああああああああああ……！」

――――しばらくお待ちください――――

「はあはあ……死ぬかと思った……汗」

「こっちは殺されましたがね」

なんでこんなのに殺されたんだろ俺……調子にのってあんなところで叫ばなかったらよかった……。

「んでこのあとどうなるんだ俺は？」

まだ地球製のFFとかドラクエとかやりたかったな……地球のマンガやアニメゲームは最高なのに！！

「転生させるの」





## プロローグ（後書き）

主人公は地球産のゲームとかにはまっているオタクですw

## 第1話 妹とともに森の中デス

「おにいさまぁ・・・おなかすきましたぁ・・・」

どーもユーキ・エンクルストです。いえ、今はアルトマンと名乗っています。13歳です。

んで、今俺を兄と呼ぶこの超絶可愛い金髪幼女が妹のエリスティア。呼び名はエリス。7歳です。いやーそれにしてもまいりましたよ。この世界でなかなか裕福な貴族層の家に生まれ・・・

『いやっほおおおおおおお！！俺 勝ち組w だあああああ  
あああああああああ！！』

とか思ってたのに、妹が生まれて5年たったころいきなり家が没落し親は逃げて俺と妹は森に捨てられたんですよー。

この可愛い過ぎる妹を助けるために最初はとにかく必死で盗賊まが

いのことをして商人など襲い金と食料を確保したり、うさぎやらイノシシやらドラゴンを殺して焼いて食ったり・・・。

最初は妹は嫌がって泣いていたが今では美味しそうに食べてる・・・慣れってすごいなー。

「おにいさまぁぁ？きいてますのー？」

てかドラゴンがいる時点でおかしいですよー。なんですかこの世界は？あれですか？剣と魔法が友達のファンタジーな世界ですか？

そういえば捨てられた直後に神様（笑）にもらった能力がわかりましたよ。名前は『究極召喚』（FFの祈り子になるやつではありませんw）・・・まあ要するに召喚獣やら幻獣やら伝説の武器やら宝具、空想上の物で知ってるものなら何でも召喚できます。

「食料が出てきてくれたら楽なのに・・・」

「おにいちゃまぁあの・・・」

いろいろ試したが食料となるものは出てこなかった。動物系を召喚して肉をくれと頼んだが体は魔力で構成されているらしく食べれないと必死な形相で説得された。（召喚した生き物の意思はだいたいわかる）

しかし本物のドラゴンが出てきたときはマジであせったなー。ドラゴンキラー召喚してなんとか・・・なるわけなかったよ！こつちはまだ子どもですよー。しかも妹がいるから剣で立ち向かえるわけ 아닙니다よ！そんなこんなで結局バハムート（FF10）召喚して倒してもらいました。あのドラゴンめっちゃ怯えてたなーさすが竜王w

ちなみに捨てられてから二年経ってますが一向に森から出ていません。この世界は昔のヨーロッパに似ていますがちよつと違うみたいです。なので森から出て人と関わるのはまだ子どもである俺たちには危険すぎると判断して森の中で修行することにしました。あと口グハウスとか服は何故か召喚できましたよ便利ですねーこれw

「グスッおにいちやまのばあかあああああー！」

「どどどどうしたんだいエリスウーよしよし泣かないでくれえほ  
ら高い高ーいー!!」

「なじええりすをむしするんですかあー!!グスンッ」

やばい涙目のエリスも可愛いよー!!

ポカポカと胸を叩いてくるエリスに俺は感動の涙もとい鼻血がでる  
のを必死に抑える。さすがにこれはやばいよ紳士として。

「ごめんごめんちょっと考え事してたんだよ。これからどうしよう  
かと。」

「えりすはおにいさまといっしょならなんでもいいですー!」

そう言ってニコッと微笑んでくるエリス。

「がふっ！」（吐血する音）

これに俺が耐えられるわけありません。

「おにいさま！？おにいさまあああああああ！！」

反則だよエリス……………

## 第2話　なんか変・・

「おにいさま見て見て　これすごく使いやすいよー！」

どうもユーキ・・・もといアルトマンです。14歳です。

ただいま妹のエリス8歳が俺の召喚したアルテマウェポンを自由自在に振り回しドラゴンを斬りつけています。

あ、今ドラゴンの首を切り落とした・・・。

えと・・・。

どうしてこうなった・・・orz

なんと俺が前世で習得していた魔法剣士と冒険家の技術をなぜかエリスが引き継いでいました。



なにをしたんだ神様（笑）め！！

まあエリスが自分の身を多少守れるようになったのはいいことなんですよ。エリスの可愛らしさに惹かれて変なロリコンおじさんに誘拐などあつては大変ですから。

しかしおしとやかで血を見ることが嫌いなエリスが今ではドラゴンを惨殺するほどに・・・あれ？どこで教育間違えたのかな・・・（泣）

やはり護身用としてエリスに剣を与えたのが間違いでしたか・・・だってこれ欲しいってせがむんだもの・・・涙目＋上目づかいで・・・どこでそんなテクを覚えてしまったのやら・・・効果抜群じゃないか！！

「おにいさまへ早くお昼ごはんにしましょう！！」

「わかった。今日はステーキにしようかな？つとその前にお風呂に入ってきなさい。」

「はい！！」

汚れたままのがよほど嫌だったのか大急ぎで風呂に駆け込んでいく  
エリスをみてつい笑ってしまう。

まだ家が没落する前ではエリスは走ることもひとりで着替えることも許されていなかった。まったく淑女はおしとやかにとかいってあのクソババアども！

昼飯を作り終えたので結構風呂がながいエリスを待つ。ちなみにこの家の風呂は五右衛門風呂で下に宝具『レーヴァテイン』を刺しておくと剣の熱気を調整すればちょうどいい温度にw w

宝具のむだ使いですねすいませんw

でも使えるものは使わないとね！

「「いただきまーす」」

このあいさつは前世の旧地球の日本の国ものです。俺がアニメやマンガによく出てくるこのあいさつが気に入る家まででからずつつかってます。（エリスもおもしろがってマネてる・・・カワユス！）

そうそう、エリスにそろそろ旅に出ることを伝えなければ。俺達はまだドラゴンやら山賊やらは楽に倒せるようになったので旅に出てみようかと。エリスをいつまでもこの森に閉じ込めておくわけにもいかないですし。

「というわけで明日から旅にでましようエリス。」

「ホント!？」

ガバツとテーブル越しに身を乗り出してきた。食べている途中なので口の中のものが俺の顔に振りかかる。

エリスの食べたものが俺の顔に・・・。

いただきます！

「うっごめんなさいおにさま／＼今拭き取りますから」

顔をりんごみたいに真っ赤に染めてあたふたしてるエリスをみて・・・  
・いいこと思いついた！

「エリス・・・雑巾で顔を拭かれては痛いので・・・舐め取ってくだ  
さいー」

「っええ！？むっ無理だよはかしいよう！あっても・・・ゴニョ  
ゴニョ」

さらに赤くなって面白いですねー。

まあそろそろかわいそうになってきたので冗談だと言ってあげますか（笑）

「エリスー今のはじょ・・・」

「おにいさまがそうおっしゃるのなら／＼・・・えりすいきまー！すー！！」

「えっ！？」

何があつたのかはご想像におまかせします／／／

## 第2話　なんか変・・・（後書き）

描写？エリスのあんなうれし恥ずかしことを紳士を俺がするとおも  
うか！？

え？紳士ならそもそもあんなこと言わない？

サーセンww

### 第三話 伝説はここから始まるのだ！

「おにいさま、お怪我はありませんか？」

「それ言つの何回目だエリス？」

「57回目ですわ」

心配そうに俺を抱きしめて見つめてくるエリス。

生まれてきてよかった！お兄ちゃん一生エリスを守り続けるよ！！  
もちろん嫁にはださん！！



ってのはまあ冗談として……。

何故エリスがこんなに心配してくるのかというと、さっき森を出て初めて入った町が原因だ。

「エリス、乗り心地はどうだ？」

俺達は俺が召喚した馬車でくつろいでいる。馬車を引くのはこれまた召喚した2頭ギャロップだ。脚力と知能が高いしモンスターが襲ってきても撃退できるように強いヤツを召喚しようと思って頭に思い浮かんだのがコイツらだ。

召喚したやつは召喚者である俺に従うため触らせてもらったが触り心地が最高だったと言っておこう。

もちろんエリスにも従い守るよう厳命してある。

「もうすこし揺れると思ってたのですが・・・この馬車は揺れが少ないしシートはふかふかだし最高の馬車ですね」

花が咲き誇るような笑顔いただきましたー！！幸せだ俺w

「あ、あれ町ですよ！」

エリスがどうやら町を見つけたみたいだ。ならそろそろ幻術でギャロップと俺たちの姿を変えるか。

言ってなかったが俺は前の世界の魔法を使えるようになっていた。  
どんどん最強に近づいていつてるぜw

「エリス、今から幻術で姿を大人にするぞ」

「美人にしてくださいね（笑）」

エリスのクスクス笑っている姿もかわ・・・いかんいかん

「いくぞ・・・真偽交わる幻影の精霊よ、姿を惑わせ！」

『イリュージョン  
我包む幻想の現実』

「わゝおにいさまがムキムキなオジ様になってるゝ」

「エリスも美人さんだよ」

こうなりましたw

俺〓ジャック・ラカン（ネギま）

エリス〓惣流・アスカ・ラングレー（エヴァンゲリオン）

ギャロップ〓普通の馬に

服装はエリスは町娘風で俺は冒険家みたいだ。

ちなみに普通の幻術とは違いこの体は実体であるのがすごいとこだ。

魔力で構成されているがよほど強い魔法を受けない限り解けることはない。

んで町に入り馬屋に馬車を預けて宿を探すところまでは順調だったのだが……。

なんだこれ？

「お嬢さん私と結婚してください!!」

「おいコラ邪魔すんな俺が先だ!」

「僕は貴族だぞ!平民共はきえろ!!」

「俺も貴族だバカ!!」

「貴族なんか関係ない!!」

エリス（アスカモード）に男どもが殺到してきやがった・・・殺すか・・・。

「おいテメーら「邪魔だおっさん!きえ・・・ひい!」・・・OK  
君等のことはよくわかった」

コイツラ八害虫ダ!!!

そこから俺の拳での Ohana siが始まったw

「おにいさまカッコよかったですー／＼／＼私のために・・・ポ／／」

なんかエリスが顔を赤くしているがやはりこの害虫どものせいか。  
やはり町は危険だ。

「こつちだーあの暴漢をひつとらえろ!!」

「くそっまだこりねーのか」

さっき殴り飛ばした貴族どもが私兵を集めて来やがった。それにしても多い。もしかしたらこの町のほとんどが俺らを追っかけてきて  
ると思うほどだ。

こつなったら・・・

この町消すか。ニヤリw

「召喚！！イフリートオ！！燃やし尽くせ！！」

俺の周囲に現れた召喚陣から炎をまとったマッチョのおっさんが現れるw（FFクライシスコア版）

「エリスー逃げるぞー」

「きゃー」

炎のマッチョおっさんwの降り注ぐ火の雨、燃え盛る町を俺達は笑いながら脱出した。

手強くてしつこい追手はエリスを馬車のもとに行かせ俺が殺しておいた。しかし、そのとき服に相手の剣がかすったのでエリスが破れた服を見たときから冒頭のやりとりは始まったのである。

その後賞金首になりました（笑）



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0290o/>

---

紳士はいつでも紳士であるべき

2010年10月10日04時17分発行